

1. 長期成長ビジョン

当社は、高齢化社会と医療用医薬品市場の需要拡大を背景に、一般用医薬品で培った技術力を活かし、*1ジェネリック医薬品を主とした医療用医薬品受託製造事業への進出及び*2スイッチOTC医薬品製造事業の拡大による成長により、2029年度を目途に全社で40億円の売上を目指す。

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

当社の長期成長ビジョンは下記の4つの観点で考えている。

1. 事業の拡大と成長

- 高齢化社会における安定的な医薬品供給の社会的要請に応え、企業価値の向上による持続的会社運営を目指す。

2. 技術革新と社会貢献

- 一般医薬品製造で培った技術力を活かし、ジェネリック医薬品の受託製造に進出する。
- スイッチOTC医薬品事業を拡大し、技術革新と社会貢献を目指す。
- 高品質で安全な医薬品を供給し、国民の健康と福祉に貢献する。

3. 経営基盤の強化と事業拡大

- 一般用及び医療用医薬品の製造事業を組み合わせ、収益性の向上とリスクの分散を図ることにより、経営基盤をより強固なものとし、持続可能な成長を実現する。

4. 地域社会への貢献の継続

- 奈良県の伝統的な地場産業である医薬品産業を活性化させ、地域経済の活性化や雇用の創出、地域医療の充実に貢献する。

売上成長目標

- 2029年度までの会社全体の売上高成長率100%
- 2029年度までの会社全体の売上高増加額20億円

外発的動機

- 高齢化社会に伴う医薬品需要の増大、国のジェネリック医薬品推進政策への同調、ここ数年での大手ジェネリックメーカーの不祥事により医薬品の供給が不安定な状況となっている。安定した医薬品供給の社会的要請に応えることで、企業価値向上と社会貢献を両立させることを目指す。（詳細は『2.現状分析の状況：外部環境』参照）
- 富山県（全国シェア6.8%*3）や滋賀県（同5.6%*3）に比べて、奈良県は医療用医薬品メーカーが少ない現状である（同1.1%*3）。当社はジェネリック医薬品を中心とした医療用医薬品の製造事業を展開し、奈良県の医薬品産業を他の地域に見劣りしないレベルまで活性化させ、地域経済に貢献することを目指す。

内発的動機

- 一般用医薬品製造で培った技術力を活かし、ジェネリック医薬品を主とする医療用医薬品受託製造事業への進出を通じて、企業の長期的な成長と技術革新、社会への貢献を実現する。（詳細は『3.現状分析の状況：内部環境』参照）
- 主要事業である一般用医薬品製造事業とともに、医療用医薬品受託製造事業を成長させることで、収益性のボラティリティを低減し、安定的な経営を実現する。

*1ジェネリック医薬品とは、新薬（先発医薬品）と同じ有効成分を使っており、品質、効き目、安全性が同等のもの（日本ジェネリック製薬協会HPより）。

*2スイッチOTC医薬品とは、医師から処方される医療用医薬品のうち、副作用が少なく安全性の高いものを市販薬（OTC医薬品）に転用（スイッチ）したもの（全国健康保険協会HPより）

*3「令和4年（概要）薬事工業生産動態統計調査」より。

2. 補助事業の概要

医療用医薬品受託製造事業を行うための高性能製造設備の導入、当該設備を設置できる新工場の建設、既存工場の改修を行うことで、省人化された生産体制を実現し、賃上目標値を達成するとともに、製品の安定した供給を実現する。

補助事業の背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> 省人化された生産体制を実現するため、高性能製造設備の導入、当該設備設置のための新工場建設、既存工場改修が必要となっている。 	事業費(補助額)	38億円(12億円)
------------	---	----------	------------

設備投資の内容	<p>【工場建物】</p> <p>①設備の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療用医薬品受託製造のための高性能製造設備導入のため、新工場の建設、既存工場の改修工事を行う。 <p>②現在抱えている課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存工場で使用している包装機械では500錠/分の処理能力を有しているが、より処理能力の高い包装機械は大型であり既存工場には収まらないため導入が困難であり、当社の生産向上の課題となっている。 製品の安定供給のために原材料、製品を一定量ストックし、急な受注増加に対応できる体制が必要であるが、既存工場では在庫保管のための十分なスペース確保が困難である。 <p>③課題解決、労働生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 新工場の建設、既存工場の改修工事を行うことで、高性能製造設備の導入が可能となる。これにより現行設備の12倍の処理能力を有する包装機械(6,000錠/分)の導入が可能となり、生産性向上が実現できる。 生産性をより向上させるため、現在手作業で実施している錠剤の供給や各種包装品の検査等を自動化できる工場設計とするとともに、一部設備で夜間無人運転が可能となる設計とし、省人化を図る。 新工場に約500パレット分の保管スペースを確保し、必要な原材料、製品の在庫を確保し安定供給を実現する。
---------	---



	項目	2026年度(基準年度)	2029年度(基準年度+3年後)
目標値	労働生産性(単位:万円/人)	984万円/人	1,180万円/人(年平均上昇率+6%)
	従業員1人あたり給与支給総額(単位:万円/人)	413万円/人	478万円/人(年平均上昇率+5%)
	役員1人あたり給与支給総額(単位:万円/人)	—	—(年平均上昇率+5%)
	補助事業に係る従業員数(単位:人)	113人	143人